

苫小牧市

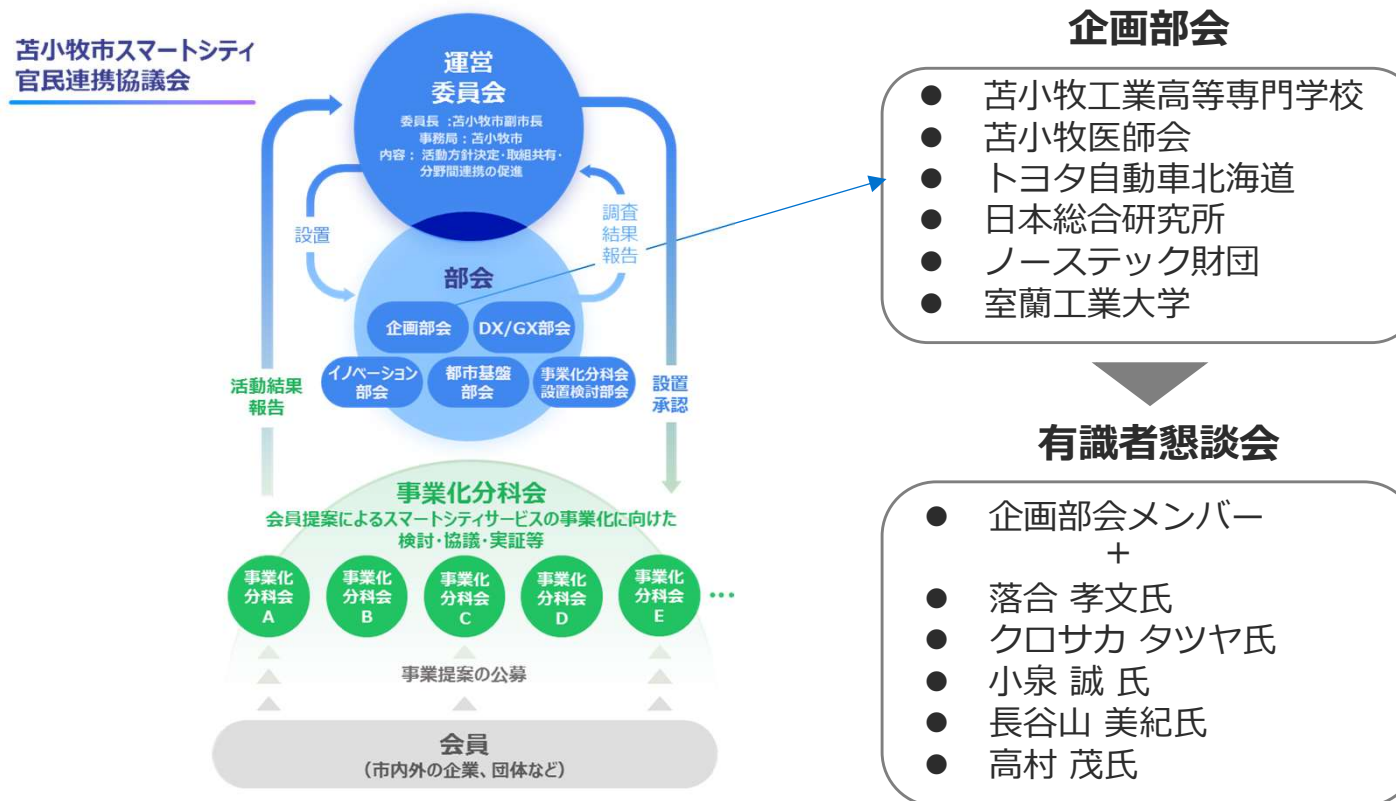
北海道経済発展のために 苫小牧市が何をすべきかを考える有識者懇談会

とりまとめ骨子 報告書

令和6年3月

株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門

北海道経済発展のために苫小牧市が何をすべきかを考える有識者懇談会設置について



有識者懇談会の役割

北海道の北海道データセンターパーク構想や、ラピダスの北海道バレー構想では、苫小牧・千歳・札幌・石狩のエリアー帯をGX・DX産業拠点化を目指している。GX/DX産業である次世代半導体産業やデータセンター等の進出による苫小牧市周辺環境の変化に伴い、各界の有識者と意見交換をしながら、今後の北海道における苫小牧市の役割や課題等を検討し、北海道経済の発展に資する本市のまちづくりの方向性を整理するために設置する。

会の開催と運営

- ・ 「株式会社日本総合研究所」に委託し、有識者の選定及び懇談会の運営等を実施。
- ・ 今年度3回開催（初回・2回目はクローズド、3回目は協議会でその時点の内容を公表）

北海道経済発展のために苫小牧市が何をすべきかを考える有識者懇談会 有識者一覧



アサマ ヒロフミ
東 博暢 氏

株式会社日本総合研究所 プリンシ
パル／苫小牧市都市再生アドバイ
ザー／大阪公立大学研究推進機構
特任教授

懇談会ファシリテーター



くりはら たかふみ
落合 孝文 氏

渥美坂井法律事務所・外国法共同事
業シニアパートナー／プロトタイプ
政策研究所 所長



クロサカ タツヤ 氏

慶應義塾大学大学院政策・メディア
研究科 特任准教授／株式会社
企（くわだて） 代表取締役



アリハラ ミチハル
有村 幹治 氏

室蘭工業大学・大学院工学研究科
もの創造系領域 土木工学ユニット
クリエイティブコラボレーションセ
ンター 教授



たかむら しげる
高村 茂 氏

北海道科学大学未来デザイン学部
教授／新社会システム研究所 代表



こいずみ まこと
小泉 誠 氏

デジタルリテラシー協議会事務局／
一般社団法人日本ディープラーニン
グ協会 プロジェクトアドバイザー
／慶應義塾大学大学院システムデザ
イン・マネジメント研究所 研究員



はせがわ みき
長谷山 美紀 氏

北海道大学副学長 大学院情報科学
研究院長 創成研究機構データ駆動
型融合研究創発拠点 拠点長

北海道経済発展のために苫小牧市が何をすべきかを考える有識者懇談会 第一回参加者

分類	肩書	氏名
有識者	株式会社日本総合研究所 プリンシパル／苫小牧市 都市再生アドバイザー 大阪公立大学研究推進機構 特任教授	東 博暢
	室蘭工業大学 もの創造系領域 土木工学ユニット クリエイティブコラボレーションセンター 教授	有村 幹治
	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業シニアパートナー／プロトタイプ政策研究所 所長	落合 孝文
	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任准教授／株式会社企 代表取締役	クロサカ タツヤ（オンライン参加）
	デジタルリテラシー協議会 事務局／一般社団法人日本ディープラーニング協会プロジェクトアドバイザー／ 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究所 研究員	小泉 誠
	北海道科学大学 未来デザイン学部 人間社会学科 教授	高村 茂
	北海道大学 副学長（IR, 数理データサイエンス, D-RED） 大学院情報科学研究院長 創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED） 拠点長	長谷山 美紀（オンライン参加）
苫小牧市	総合政策部 未来創造戦略室 室長	成田 晃
	総合政策部 未来創造戦略室 国際戦略主幹	田山地 清美
	総合政策部 未来創造戦略室 都市再生主幹	林 巧
	総合政策部 未来創造戦略室 主査	西川 真彦
	産業経済部 次長	木澤 直子
	産業経済部 港湾・企業振興課 課長	力山 義雄
	産業経済部 港湾・企業振興課 課長補佐	白崎 和城
	環境衛生部 環境生活課 課長	武田 涼一
	苫小牧港管理組合 総務部長	早崎 仁康
オブザーバー	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 弁護士	谷崎 研一
	苫小牧商工会議所	大場 達矢
	苫小牧商工会議所	遠藤 和盛
事務局	株式会社日本総合研究所	牛島 康晴

北海道経済発展のために苫小牧市が何をすべきかを考える有識者懇談会 第二回参加者

分類	肩書	氏名
有識者	株式会社日本総合研究所 プリンシパル／苫小牧市 都市再生アドバイザー 大阪公立大学研究推進機構 特任教授	東 博暢
	室蘭工業大学 もの創造系領域 土木工学ユニット クリエイティブコラボレーションセンター 教授	有村 幹治
	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業シニアパートナー／プロトタイプ政策研究所 所長	落合 孝文（オンライン参加）
	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任准教授／株式会社企 代表取締役	クロサカ タツヤ（オンライン参加）
	デジタルリテラシー協議会 事務局／一般社団法人日本ディープラーニング協会プロジェクトアドバイザー／ 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究所 研究員	小泉 誠（オンライン参加）
	北海道大学 副学長（IR, 数理データサイエンス, D-RED） 大学院情報科学研究院長 創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED） 拠点長	長谷山 美紀（オンライン参加）
苫小牧市	総合政策部 未来創造戦略室 室長	成田 晃
	総合政策部 未来創造戦略室 国際戦略主幹	田山地 清美
	総合政策部 未来創造戦略室 主査	西川 真彦
	産業経済部 次長	木澤 直子
	産業経済部 港湾・企業振興課 課長補佐	白崎 和城
	環境衛生部 環境保全課 課長	櫻井 理博
	環境衛生部 環境保全課 主査	石川 慶悟
オブザーバー	苫小牧商工会議所	遠藤 和盛
事務局	株式会社日本総合研究所	牛島 康晴
	株式会社日本総合研究所	磯田 賜
	株式会社日本総合研究所	丸谷 空之

北海道経済発展のために苫小牧市が何をすべきかを考える有識者懇談会 第三回参加者

分類	肩書	氏名
有識者	株式会社日本総合研究所 プリンシパル／苫小牧市 都市再生アドバイザー 大阪公立大学研究推進機構 特任教授	東 博暢
	室蘭工業大学 もの創造系領域 土木工学ユニット クリエイティブコラボレーションセンター 教授	有村 幹治
	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業シニアパートナー／プロトタイプ政策研究所 所長	落合 孝文
	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任准教授／株式会社企 代表取締役	クロサカ タツヤ
	デジタルリテラシー協議会 事務局／一般社団法人日本ディープラーニング協会プロジェクトアドバイザー／ 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究所 研究員	小泉 誠
	北海道科学大学 未来デザイン学部 人間社会学科 教授	高村 茂 （オンライン参加）
	北海道大学 副学長（IR, 数理データサイエンス, D-RED） 大学院情報科学研究院長 創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED） 拠点長	長谷山 美紀
苫小牧市	総合政策部 部長	町田 雅人
	総合政策部 未来創造戦略室 室長	成田 晃
	総合政策部 未来創造戦略室 国際戦略主幹	田山地 清美
	総合政策部 未来創造戦略室 都市再生主幹	林 巧
	総合政策部 未来創造戦略室 主査	西川 真彦
	総合政策部 まちづくり推進課 交通政策主幹	村上 歩
	産業経済部 次長	木澤 直子
	産業経済部 港湾・企業振興課 課長補佐	白崎 和城
	総務部 I C T 推進室 室長	早勢 宣輝
	総務部 I C T 推進室 主幹	川合 基央
オブザーバー	苫小牧商工会議所	遠藤 和盛
事務局	株式会社日本総合研究所	磯田 賜

苫小牧市の強みと課題

海、山、湖と豊かな自然に囲まれた物流の拠点という強み

物流の拠点

- 国内港湾の取引量が1番多い
- 北海道の港湾貨物の半数以上を取り扱う国際拠点港湾である「苫小牧港」、北海道のゲートウェイ「新千歳空港」の**ダブルポートを擁する**北海道最大の産業拠点都市

交通アクセスに恵まれている

- 鉄道、国道、高速自動車道などの**交通アクセスにも恵まれ**、北海道経済発展の大きな役割を担う産業拠点都市として発展している活気のあるまち

豊かな自然に囲まれている

- ラムサール条約に指定されている日本を代表する渡り鳥の中継地ウトナイ湖や溶岩ドームを持つ世界的にも珍しい三重式火山の樽前山がある



人材流出と苫東地域企業誘致の課題

若年層の人材流出

- 周辺の自治体から転入が多い一方で、若年層の進学や就職による都市部への流出に歯止めが掛かっていない

苫小牧を通りすぎてしまう

- 北海道に来て、北（札幌方面）に行ってしまう、苫小牧に来たことがない人が多い
- 南下してきても苫小牧を通り過ぎてしまう

企業誘致がうまく進まない

- 日本最大の工業団地「苫東地域」には、総面積10,700haの日本最大の産業用地がある
- しかし他地域との競争に勝てず、誘致に至らなかったケースもある

偏りのある都市構成

- 東西に長い自治体であり、時代の変化や工場立地、自動車社会の影響もあり、拠点がなくスプロール型になり、東西の偏りのあるまちとなっている。苫小牧中心市街地の活性化を加速化する必要がある



有識者から寄せられた意見/全体的な論点（第1回～第3回の取りまとめ）

近隣との 共同・連携

- ・「**苫小牧の中だけなのか近隣とも共同するのか**というところはあるかと思うが、そういうところ考えると良いのではないか。」
- ・「1つの高専や大学でやろうとしないことがポイントであり、連携していくことで広く新しいものを生み出していくことが重要ではないか。」
- ・「道央中心に基礎自治体で連携することが重要であり、そこでの役割分担を行いながら協力すべきである。」

地域の中での 苫小牧の 役割の明確化

- ・「**「札幌バレー（札幌市内のアプリケーション・システム開発及び関連サービス企業の集積）」という話もあるため、地域ごとの役割分担を考えていき、その中でどのような存在感を打ち出していくかという考え方もあるか**と史料する。この**札幌バレーで、産業集積のある苫小牧がどのような役割を果たしていくか**、そういう考えができると面白いと史料する。」
- ・「札幌から苫小牧の周辺に人口の半分が住んでおり、苫小牧港は高速道路を繋がっており、北海道全体のロジスティクス（物流管理）のハブになっている。**例えば高速道路上を走るトラックを完全自動運転に対応させるとなれば今から議論しておかないといけない**。全体の物流ネットワークをGX（グリーントランスフォーメーション；脱炭素、グリーンエネルギー中心の経済・社会・産業構造に移行させること）で考えると、港を中心に作っていくのではないか。」
- ・「水素のような**再生可能エネルギーのマネジメントとモビリティの話を同時に解く**ようなことを域内で考えないと次の10年間戦えない。」

まちづくりの方向性

- ・「**産業用地を増やしていったときに、いまの供給能力で足りているか、人口が増えていったときに、居住エリアをどのように整理再編していくかという話もあるのではないかと感じた。**」
- ・「**どういうまちを目指すかというときに、（住む場所に障壁がなくなった最近では衣食住から医食習に変化したため）医食習の人的集団を集めるべきである。**」
- ・「**新しい職場が生まれる中で、住んでいる人のQOLを上げることがまだリンクできていない。**」
- ・「**晴れの場が日常の中であるかどうか**が重要であり、他者の存在と触れ合う場が必要である。」
- ・「GXとDX産業の話以外にも、これからは生物多様性（TNFD）が評価されるようになるため、北海道の特徴も出せると史料する。」

人材育成の指針

- ・「自分たちと同じ価値観の人が集まるということと、人材が供給されて産業セクターが盛り上がるのは地続きである。」
- ・「人材は非常に重要だが後回しにされる。**人とまちと仕事のバランスが非常に重要である。**」「**受容性が上がっていない状態でハイクラス人材を誘致しても抵抗勢力が起こってくる。**」「**市として企業に人材育成の指針を出すことをお勧めしたい。**」
- ・「ハイクラスと並行して、リテラシーに関しても市として指針を具体的に示し、支援を惜しまず、その推進がどうなったかモニタリングをし、市として人的資本経営の状況を開示していくべきである。」
- ・「**人材育成の目的が重要になってくる。行政認定が目的になると、人材が育成されるプロセスが始まる。**」

有識者から寄せられた意見/個別の論点

GXの取り組み	「札幌市・北海道は政府が創設する金融・資産運用特区に応募しており、北海道の特色がGX関連に打ち出されている。」 「Team SAPPORO-HOKKAIDO では、エネルギーの循環に力を入れて取り組んでいるように見えた。」 「その中で再エネポテンシャル、産業集積、その中にデータセンター、半導体関連、海底通信ケーブルというのが中心にある。ただ、再エネでは厳しく、水素も考えているというお話もあった。市の中で取り組みを進めていくということで重要なポイントになるのではないか。」 「エネルギーとモビリティは市民の生活に関わってくるため、同時に解決すべきである。」
市の特徴を生かした産業政策	「住んでいくにあたって商業の部分の振興もあると思料する。東北の方で中心市街地のデパートがつぶれるという話もあるようだが、商業施設の話もウォークブルの話を考えるのに重要である。地域内の経済循環・商業機能ということも考えていくのも必要ではないか。」 「データセンターには品質の良い安定した電源が必要となるが、今後、通信インフラや海底ケーブル引き上げ、データセンターなどDX領域で大規模電力が必要となると思慮するが、市内の電力供給含め、GX/DX政策をどのように展開していくのかを教えていただきたい。」 「産業が集積していて働く場所があるというのが地方では見つけにくいので、グリーン（GX）、通信・デジタル（DX）の特徴を生かしながら、産業が集まる街になれば良いのではないか。」
データを生かしたモビリティ	「無医療地域のMaaS（Mobility as a Service）についても、何が人の生活を変えていけるかということで考えていければ面白いと思料する。」 「交通データが集まっているのであれば、せめて道内では、苫小牧がいち早く自動走行を実装するようなことを打ち出さないといけない。」 「工場立地との関係において、スプロール（都心部から郊外に向けて無秩序・無計画に開発が進められる状態）になりそうな開発が懸念される。工場など団地になっているところと中心市街地をどう開発するかを考えながらモビリティを考えられるとよい。」「需要側にどういう要求があるか考えたうえで、最適化の議論が必要である。」
AIデータセンターを拠点としたサービスモデル	「市内に整備されるデータセンターを拠点に生成AIのサービスモデル構築など新たなコンセプトを打ち出す必要がある。」
交流人口・関係人口の拡大にむけた取り組み	「外部から来た人が留まっているような都市と比較すると、居住している市民・地元産業界中心の話題が多く、外からくる人にどのように留まっていたかというお話が今のところ少ないと感じた。外から来られた方に向けた観光や宿泊といった観点がないと思料する。」

- ## 広域連携によるレバレッジ拡大